第３期中期目標期間（４年目終了時評価）に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人三重大学

１ 全体評価

三重大学は、建学以来の伝統と実績に基づき、基本的な目標として掲げる「三重の力を世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。～人と自然の調和・共生の中で～」の達成を一層確固たるものにするため、その実践に努めることとしている。第１期及び第２期中期目標期間中の産学官連携事業における「地域のイノベーションを推進できる人財の育成」の成果を踏まえ、第３期中期目標期間においては、社会に積極的に貢献できる人材を育成するとともに、人文社会系（人文・教育）、自然科学系（医学・工学・生物）それぞれを核とした分野におけるイノベーションを推進し、地域の活性化・創生を目指すこと等を目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況及び主な特記事項については以下のとおりである。

	特筆	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れ	重大な改善
教育研究						
教育			○			
研究			○			
社会連携			○			
その他			○			
業務運営			○			
財務内容			○			
自己点検評価			○			
その他業務		○				

（教育研究等の質の向上）

三重県の特色を踏まえて、特に人材育成が必要な３分野の中から学生が興味関心のある分野を自ら選択する「三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース」を開設し、多くの修了生を輩出している。また、三重大学リサーチセンターのうち特に重点的に取り組むものを卓越型リサーチセンターとして認定し、研究費の配分や研究室等の貸与等で重点的に支援しており、三重大学特異構造の結晶科学リサーチセンターにおいては、世界水準の研究を推進しているとともに令和元年度に各分野における有識者からなる委員による外部評価を受審し、全ての卓越型リサーチセンターで高い評価を得て継続認定が決定している。

（業務運営・財務内容等）

既存の大学設備を計画的に省エネルギー効率の高い設備へ改修する大学独自の仕組みとして「三重大学省エネ積立金制度」を創設しており、この制度により拠出した資金を原資として補助金を獲得し省エネ改修を行った結果、計画を上回る削減を実現している。また、大学の環境マネジメントシステムの構築と環境マインドの向上を活動目的として活動する学生団体「環境ISO学生委員会」が中心となりサステイナブルキャンパス活動を実施しており、「環境大臣賞」を受賞する等高い評価を受けている。

２ 項目別評価

Ⅰ．教育研究等の質の向上の状況

＜評価結果の概況＞

	特筆	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（Ⅰ）教育に関する目標			○			
①教育内容及び教育の成果			○			
②教育の実施体制			○			
③学生への支援			○			
④入学者選抜			○			
（Ⅱ）研究に関する目標			○			
①研究水準及び研究の成果		○				
②研究実施体制等の整備			○			
（Ⅲ）社会連携及び地域に関する目標			○			
（Ⅳ）その他の目標			○			
①グローバル化			○			
②学術情報基盤			○			

（Ⅰ）教育に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）　「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）４項目のうち、４項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

２．各中期目標の達成状況

1-1教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）　「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）３項目のうち、３項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

1-1-1（小項目）

【判定】中期目標の達成に向けて進捗している
（判断理由）　中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

1-1-2（小項目）

【判定】中期目標の達成に向けて進捗している
（判断理由）　中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

＜特記すべき点＞
（特色ある点）
○ 三重創生ファンタジスタの養成

三重県の特色を踏まえて、特に人材育成が必要な３分野（食と観光分野、次世代産業分野、医療・健康・福祉分野）の中から、学生が興味・関心のある分野を自ら選択し、３つの授業科目群（地域志向科目群、地域実践交流科目群、地域イノベーション学科目群）から資格認定に係わる科目の単位（12単位以上）を修得する「三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース」を設立し、令和元年度には三重創生ファンタジスタを363名輩出している。さらに、三重創生ファンタジスタの養成を県内12の高等教育機関で実施し合計211名の三重創生ファンタジスタを輩出している。また、県内の企業等において、新卒採用の募集要項の中に三重創生ファンタジスタ資格を明記する企業も出てきており、三重県の文化や産業を結んで地域創生を担う人材を育成するプログラムとなっている。（中期計画1-1-2-3）

1-1-3（小項目）

【判定】中期目標の達成に向けて進捗している
（判断理由）　中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

＜特記すべき点＞
（特色ある点）
○ 学生モニター制度による質保証の促進

令和元年度に学生モニター制度として三重大学学生教育会議を開催し、学生35名と教職員10名が三重大学の教育について議論を行っている。さらに、三重大学学生教育会議の学生代表と大学執行部とで地域人材育成推進会議を開催し、教育に対する助言及び提言を行っている。（中期計画1-1-3-4）

○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学習機会を確保するため、PCや学修に関するオンライン相談窓口の設置、遠隔、対面双方の教員・学生が教室で一体となって授業を受けられる「臨場感のあるハイブリッド環境」の構築等、円滑にリモート教育を行うための取組を短期間に行い、令和２年４月から全ての授業について原則オンライン形式で実施している。また、教育学部、医学部では学生同士、又は学生と教員の交流ができる機会の提供、工学部では実験室の実験風景や教員が手本として行う実験のライブ配信、生物資源学部ではオンライン授業の授業参観を実施し、教員間の情報共有を進め、医学部・医学系研究科ではグループディスカッションのクラウドレコーディングを行いチュートリアル教育の総合的評価に活用するなど意欲的なリモート教育を展開している。なお、前期授業アンケートを実施した結果、遠隔授業がスムーズに実施できたことが確認されているほか、出席率の上昇、オンラインツールの活用方法の上達や、学生の学習時間の増加等もみられている。

1-2教育の実施体制等に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）　「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が１項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-2-1（小項目）

【判定】中期目標の達成に向けて進捗している

（判断理由）　中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

○ 地域人材教育開発機構による教学IR

各部局の教学マネジメントの自立的構築に向けて、平成28年度に地域人材教育開発機構に教学IR・教育評価開発部門を設置し、授業評価アンケート等の分析結果を報告する教学IR組織として、学期ごとに調査する授業評価アンケート、年１回実施する修学達成度調査及び教育満足度調査を通じて、多面的に教育情報を収集・分析している。各調査の主な結果及び注意点については、学部ごとに分析・考察して全学へ報告するとともに、教育会議を通して各学部にフィードバックしている。（中期計画1-2-1-1）

○ 地域人材教育開発機構による教育改善

先導的な教育実践とその評価方法を開発するため、地域人材教育開発機構を設置し、e-learning環境の整備や三重大学の教育目標である「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」と、それらを総合した「生きる力」の「４つの力」の評価方法の開発を行っている。また、アクティブ・ラーニングや教育実践に係るファカルティ・ディベロップメント（FD）を企画・主催するなど、教学改革や改善を先導し、新しい教育の内容や方法を提起するファシリテイト機能やデザイン機能を発揮している。(中期計画1-2-1-2)

1-3学生への支援に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）　「学生への支援に関する目標」に係る中期目標（小項目）が１項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-3-1（小項目）

【判定】中期目標の達成に向けて進捗している

（判断理由）　中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

1-4入学者選抜に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）　「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目）が１項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-4-1（小項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて進捗している

（判断理由）　中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

（Ⅱ）研究に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）　「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）２項目のうち、１項目が「計画以上の進捗状況にある」、１項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

２．各中期目標の達成状況

2-1研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

（判断理由）　「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）２項目のうち、１項目が「優れた実績を上げている」１項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

2-1-1（小項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている

（判断理由）　中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「卓越型リサーチセンターの設置」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○ 卓越型リサーチセンターの設置

平成29年度より、三重大学リサーチセンターのうち特に重点的に取り組むものを卓越型リサーチセンターとして認定し、研究費の配分（年間総額1,200万円）や研究室等の貸与（延べ513平方米）等で重点的に支援している。その結果、例えば卓越型リサーチセンターである三重大学特異構造の結晶科学リサーチセンターの研究がAluminium gallium nitride;Deep ultraviolet分野で世界６位・日本１位となっている。なお、特異構造の結晶科学リサーチセンターの研究を基盤としたプロジェクトが文部科学省の地域イノベーション・エコシステム形成プログラムに採択され、令和元年度の中間評価において総合評価Aを獲得している。また、令和元年度に各分野における有識者からなる委員による外部評価を受審し、全ての卓越型リサーチセンターで高い評価（S評価４、A評価２）を得て継続認定が決定している。（中期計画2-1-1-1）

（特色ある点）

○ 若手研究者の支援体制の構築

科学研究費のうち「若手研究（A）」又は「若手研究（B）」に対して獲得意欲のある研究者を支援することを目指して「若手研究者支援事業」及び国際学会等参加費用等の海外渡航に係る旅費の一部を支援する「若手研究者の海外研修等支援事業」の２つの若手研究者支援事業を実施している。若手研究者支援実績件数は第２期中期目標期間の平均値50.83件に対し、第３期中期目標期間の平均値は60件となり、17％以上増加している。また、令和元年度に若手リサーチセンター制度を創設し、分野横断的な新たな若手研究者の研究支援体制を構築している。（中期計画2-1-1-2）

2-1-2（小項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて進捗している

（判断理由）　中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

○ 地域拠点サテライトの設置

地域における産学官連携活動を推進するため、三重県内４地域（北勢、伊賀、伊勢志摩及び東紀州）にサテライトを設置し、研究成果を社会に公表するためのセミナーの実施、共同研究・受託研究による商品・システム開発、自治体の政策立案につながる活動等を行っている。例えば、平成28年度に設置した伊賀サテライトでは、忍者に関する教育研究を推進し、その成果を広く国内外に発信するため、新たに国際忍者研究センターを設置し、市民講座「忍者・忍術学講座」の開催や民間業者との忍者の携帯食「兵糧丸」について共同研究で「かたやき小焼き」を開発し、三重大学産学連携認定商品として販売を開始している。（中期計画2-1-2-2）

○ 中小企業との共同研究の増加

三重大学教員が研究代表者として開始する中小企業との共同研究を対象に助成支援を行う「中小企業との共同研究スタートアップ促進事業」を通じて、平成29年度に38件、平成30年度に48件（新規24件、継続24件）、令和元年度に43件（新規31件、継続12件）の支援を行っている。その結果、中小企業との共同研究数は平成25年度の100件から平成30年度の209件まで増加し、令和３年度までの達成目標としていた200件を前倒しで達成している。（中期計画2-1-2-2）

2-2研究実施体制等の整備に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）　「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）２項目のうち、２項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

49 三重大学

2-2-1（小項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて進捗している
（判断理由）　中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

＜特記すべき点＞
（特色ある点）
○ URA制度の整備

平成29年度に「三重大学地域イノベーション推進機構リサーチ・アドミニストレーションに関する要項」を制定し、リサーチ・アドミニストレーター（URA）教員を３名採用している。また、令和元年度には、URAを教員から職員に範囲を拡大して「シニアURA」と「URA」の二階建て構造にし、研究支援体制を強化している。その結果、中小企業との共同研究数は平成25年度の100件から令和元年度には208件まで増加している。加えて、知的財産等実施許諾等収入も、平成30年度、令和元年度と２年連続で１億円を超えている。（中期計画2-2-1-1）

2-2-2（小項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて進捗している
（判断理由）　中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

（Ⅲ）社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
（判断理由）　「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標（小項目）が１項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

２．各中期目標の達成状況

3-1-1（小項目）

【評価結果】　中期目標の達成に向けて進捗している
（判断理由）　中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

＜特記すべき点＞
（特色ある点）

○ Tokai-EDGEプログラムの実施

東海地区産学官連携大学コンソーシアムの起業家教育プログラムのTokai-EDGE（Tongali）プログラムでは、９講義（学部生対象５講義・各回80名程度、大学院生対象４講義・各回15名程度）を実施している。また、三重大学と県内高等教育機関の学生及び企業を対象に「三重大学・東ワシントン大学アントレプレナーシップセミナー」を５日間開催して、ビジネスアイデアの頭出しからプレゼンテーションまでを行うなかで、経営者候補人材の育成を行っている。（中期計画3-1-1-1）

○ Mip特許塾の実施

地域イノベーション推進機構知的財産統括室では、営業秘密やノウハウ管理や起業やAI・IoT等をテーマに「Mip(Mie intellectual property)特許塾」を実施している。平成28年度から令和元年度に学内関係者だけでなく、地域の企業等から延べ97名が参加している。また、受講者アンケートは、「役に立つ」「おそらく役に立つ」と回答した者が90%以上となり、受講者（教員・学生）からは、「知的財産に関する知識が深まり、特許出願を意識した研究テーマ設定や研究の進め方をするようになった」「単に発明や特許出願をするのではなく、社会や企業において具体的にどの様に活用されるのかを意識するようになった」等の意見も出ており、教員が研究成果を特許出願につなげている例もある。（中期計画3-1-1-1）

49 三重大学

○ みえ防災塾の実施

地域での避難所運営や訓練等の防災・減災活動を担う人材を育成するため、みえ防災塾を毎年、通年で開講している。また、演習や実習における少人数教育や対話を重視した教育を通して、現場で活躍するための応用力や実践力を育成する「さきもり応用コース」を実施し、平成28年度に文部科学省の職業実践力育成プログラム（BP）に採択されている。（中期計画3-1-1-3）

（Ⅳ）その他の目標

（１）その他の目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
（判断理由）　「その他の目標」に係る中期目標（中項目）２項目のうち、２項目が「順調に進んでいる」であり、これらを総合的に判断した。

２．中期目標の達成状況

4-1グローバル化に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
（判断理由）　「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）３項目のうち、３項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

4-1-1（小項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて進捗している
（判断理由）　中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

4-1-2（小項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて進捗している
（判断理由）　中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

4-1-3（小項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて進捗している
（判断理由）　中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

（２）学術情報基盤に関する目標（中項目）

【評定】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
（判断理由）　「学術情報基盤に関する目標」に係る中期目標（小項目）が１項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

4-2-1（小項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて進捗している （判断理由）　中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

（２）附属病院に関する目標

卒前・卒後教育の体制強化に取り組み、三重県と連携した臨床研究体制の整備及び共同研究の推進に取り組んでいる。診療面では、リウマチ・膠原病診療体制の確立や患者サービス向上のための取組を行うとともに消防署等との連携や救急患者受入体制の改善を行い、厚生労働省から高い評価を受けている。また、独自指標や外部コンサルタントの導入により経営効率化に取り組み、附属病院の診療稼働額は平成28年度以降増加しており、令和元年度には262.7億円を達成している。この他、監事監査の質の担保のための全国的な取組の推進を行っている。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

（教育・研究面）

○ 卒前・卒後教育の支援体制強化

初期臨床研修の体制を強化するため、各診療科に卒前・卒後教育を一貫して管理・評価する教育医長１名を配置する「教育医長制度」を導入しており、教育医長は卒前・卒後教育のシームレス化の推進や各診療科内での情報共有等を行い、実習・研修・学生及び研修医の評価が円滑に行える体制を構築している。この他、FDの開催等により医師や職員の教育意識を向上させ、卒前・卒後教育の支援体制の強化に取り組んでいる。

○ 研究推進体制の整備及び共同研究の推進

三重県が進める「三重ライフイノベーション総合特区」と連携して、県下の複数の中核病院の医療情報を集約した「地域圏統合型医療情報データベース」(「Mie-LIP DB」)の整備を進め、研究推進体制の充実に取り組んでいる。また、調査研究利用をより簡便に実施することが可能となるようアプリケーションの開発等を行い、令和元年度には本DBを活用した共同研究契約を２件締結している。

（診療面）

○ リウマチ・膠原病診療体制の確立

平成29年９月より「リウマチ・膠原病センター」を設置して、同年10月から診療を開始している。平成30年11月より新たに副センター長の配置、平成31年２月にスタッフ２名のリウマチ専門医への認定等によって診療体制を確立するなどの取組により、外来患者数が大幅に増加（平成29年：538名→平成30年：3,378名）しており、リウマチ・膠原病診療体制の確立に取り組んでいる。

○ 患者サービスの向上及び救急医療体制の機能向上

入院前患者への生活指導等の前方支援や地域医療機関との連携による転院支援等を一元化した組織として「総合サポートセンター」を設置することで患者サービスの更なる向上を目指している。「救命救急・総合集中治療センター」については、所属教員によるワーキンググループの開催や、消防署等と情報交換を重ねることで連携を強化し、救急患者の受入れ体制の改善に取り組んでおり、厚生労働省が実施する「救命救急センターの新しい充実段階評価（令和元年度実績）」で最も高いS評価を受け、救急体制の機能向上に取り組んでいる。

（運営面）

○ 独自の経営指標の設定及び外部コンサルタントを利用した効率的な診療、コスト削減の推進

平成28年度に独自の「KKH 指標」（「KKH」は「稼働率」「急性期率」「必要度」の頭文字）を設定し各診療科に示すことで、バランスの取れた病床稼働の意識付けを行っている。また、平成30年度には、医療経営コンサルタントにコンサルティング業務を依頼しており、各診療科の特徴や問題点を明確に把握し、より効率的な診療やコスト削減を推進している。

○ 監事監査の質の担保のための全国的な取組の推進

大学監事が発起人となり、国立大学法人等監事協議会の下に「附属病院監査研究会」を設置しており、本研究会の各種取組により全国的に他大学との情報共有が促進されたことで、監事機能の強化に大きな効果を得ることができる体制となった。

また、独自の「三重大学医学部附属病院　監事監査マニュアル」を取りまとめ、監事交代後も監査の質が担保されるようになっている。同マニュアルを附属病院監査研究会に参加している各大学の監事と共有することで監査の質の向上に寄与するなど、監事監査の質の担保のための全国的な取組を推進している。

（３）附属学校に関する目標

附属学校園では、幼・小・中の12年間の一貫教育を特色として掲げており、４校園が連携した教育カリキュラムを開発し、その成果をまとめた報告書を地域の教育委員会に配布しその成果を還元している。

附属学校では、三重県や市町教育委員会からの要請により研修会等に副校園長及び教諭等を講師や助言者として派遣した他、附属学校で開催される公開研究会で公立学校の教員を受け入れるなど、地域におけるセンター的機能の役割を果たしている。

49 三重大学

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○ 幼・小・中一貫教育カリキュラムの開発

附属学校園の目標である「連続性・系統性のある学習の保障」等を達成するため、各校園の主幹教諭等を構成員とする「四附一貫教育コーディネーター会議」を設置し四校園の連携を強化するとともに、平成30年度からは一貫教育カリキュラムの開発を効果的に進め、その取組の成果を報告書としてまとめ、県、市及び町の教育委員会へ配布を行っている。

○ 地域におけるセンター的役割

三重県教育委員会等からの要請に応じ、教員対象の研修会等の講師や助言者として附属学校の副校園長及び各教科の教諭が延べ34人参加し、指導・助言を通じて日々の教育・研究活動の成果を還元している。特に津市教育委員会との連携により、津市の放課後児童クラブを附属学校敷地内に設置し、令和元年度より児童の受入れを行っており、地域の教育活動にも貢献している。

Ⅱ．業務運営・財務内容等の状況

＜評価結果の概況＞

	特　筆	計画以上の進捗	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化			○			
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営		○				

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　中期計画の記載14事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された計画（１事項）についてはプロセスや内容等も評価）

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○ 地域イノベーション教育研究機能の拡充に向けた組織改革

「地域活性化の中核拠点」としての機能強化を図るため、「地域拠点サテライト」を県内４地域に設置（北勢サテライト、伊賀サテライト、伊勢志摩サテライト、東紀州サテライト）しており、地域特性に応じ、地域課題の解決や地域人材の養成に関する実践的な活動を展開している。

また、組織的な地域創生プロジェクトの推進を目的として、平成30年４月に「地域創生戦略企画室」を設置するとともに、県内全市町（29市町）と協定を締結することによって地域連携基盤を強化しており、自治体とのプロジェクト件数は、第３期当初の46件から約３倍の141件となっているほか、県内を中心とした中小企業との共同研究件数は、第３期当初の111件から208件（令和元年度）に増加している。

○ ソフトウェアロボット（RPA：Robotic Process Automation）の導入による業務効率化

効率的な事務業務の遂行に向けて、消耗品購入情報を会計システムへ入力する業務、ウェブ賃金システムへ従事者の作業内容や住所等の内容を入力する業務にPC業務自動化ソフトウェアロボットであるRPA（Robotic Process Automation）を適用し、適用前と比較して年間約180時間の業務時間を削減できている。さらに、RPA適用範囲の拡大等により、令和元年度は、年間合計約1,000時間の業務削減効果を得る内容を構築している。この取組について、三重県雇用経済部等の10機関へRPAに関する情報提供を行い、複数の機関からの視察依頼があり、意見交換を実施している。

○ 三重県全体をフィールドとした教育の実施と地域社会に必要とされるリーダー人材の育成

インターンシップについては、より効果的なプログラムを検討し、受入企業等と協働して取り組まなければ、実効性のある取組とはならないという学外委員の意見を踏まえて、インターンシップ担当副学長を置くなど、実施体制を強化するとともに、インターンシップの卒業要件化を全学部で決定し、令和元年度入学生から実施している。これらに加えて、平成31年４月に工学部の６学科を１学科（総合工学科）に再編した際に、３年次修了時に「卒業研究」か「長期インターンシップ」（地域企業と連携した海外インターンシップを含む）のいずれかの科目を選択可能とする教育改革を実施し、柔軟な進路選択を可能とするなど、三重県全体をフィールドとした教育の実施と地域社会に必要とされるリーダー人材の育成に取り組んでいる。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　中期計画の記載６事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　中期計画の記載３事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○ 学生の意見を反映した広報活動の取組

学部新入生を対象としたアンケートにおいて、大学のウェブサイトがスマートフォン未対応で「不便だった」という回答が42.4%あったことを受け、スマートフォン対応を実施するとともに、障害者差別解消法の施行に伴い、白黒反転機能や、音声読み上げソフトへ対応したウェブサイトの構造作り等、ユニバーサルデザインへ配慮した機能を同時に実装している。これらの取組の結果、「三重大学ウェブサイト」を志望のきっかけと回答したものが 37.4%を占め首位となるとともに、平成28年度と比較すると 12.5 ポイント増加しており、効果を確認することができている。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守等

【評定】中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

（理由）　中期計画の記載９事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の優れた点があること等を総合的に勘案したことによる。（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された計画（１事項）についてはプロセスや内容等も評価）

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○ 「三重大学省エネ積立金制度」の創設によるエネルギー削減の取組

既存の大学設備を計画的に省エネルギー効率の高い設備へ改修する大学独自の仕組みとして平成29年度より「三重大学省エネ積立金制度」を創設している。省エネ積立金制度により拠出した資金（3,645万6,000円）を原資として、外部からの補助金を約１億1,000万円を獲得し、省エネ改修を行った結果、令和元年度のエネルギー使用量は平成27年度と比較し8.5%削減(平成27年度41.87L/M→令和元年度37.88L/M）となり、第３期中期目標の数値目標を達成している。

※三重大学省エネ積立金制度：エネルギー使用者の前年度等の光熱費に応じた出資資金と、井水利用やスマートキャンパス効果から捻出した本部資金とを１：１の割合で積み立て、積立資金を基に省エネに関する外部資金を獲得することで、出資額以上の省エネ改修を実施して省エネ活動を促進する制度。

49 三重大学

○ サステイナブルキャンパス（環境負荷低減に資する大学の取組等）活動の充実

大学の環境マネジメントシステムの構築と環境マインドの向上を活動目的として活動する学生団体「環境ISO学生委員会」が中心となりサステイナブルキャンパス活動を実施しており、第３期の実施回数の平均は約42回（平成28年度～令和元年度総計171回）であり、中期計画の年間10回以上を大幅に上回るとともに、第２期の平均約19回から倍増している。平成29年度には環境ISO学生委員会の多年にわたる環境活動を評価され、地域環境保全功労者表彰「環境大臣賞」を受賞するとともに、大学の環境活動の実績等を取りまとめた環境報告書が「環境コミュニケーション大賞」（主催：環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム）を７年連続11回受賞している。（平成28、29年度及び令和元年度：“環境配慮促進法特定事業者賞”、平成30年度：優良賞）